

# 厚生労働科学研究費補助金

## 女性の健康の包括的支援総合研究事業

### 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築 と多診療科医療統合を目指した研究

令和 元年度 総括研究報告書

研究代表者 藤井 知行

令和 2 (2020) 年 7月

目 次

I. 総括研究報告	
女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究	
	----- 1
藤井知行	
II. 分担研究報告	
1. 女性を対象とした情報提供 HP とそのアクセス内容に関する研究	
	----- 3
藤井知行、大須賀穰、秋下雅弘、市橋香代、菊池昭彦、北中幸子、鈴木眞理、田中栄、対馬ルリ子、平池修、若尾文彦、上原真里、國富千智	
2. 女性の健康に関するガイドブック作成	
	----- 4
藤井知行、大須賀穰、秋下雅弘、谷垣伸治、若尾文彦、金吉春、対馬ルリ子、伊藤純子、加茂登志子、平池修、平野茉来、秋野なな、本城晴紀、宮川理華子、関口由紀、鈴木眞理、七尾道子、芝田恵、古屋仁美、設楽理恵子、山田容子、小野陽子	
3. 健康支援教育プログラム等の作成と健康相談員の養成を目的とした e ラーニングシステムの構築	
	----- 5
藤井知行、大須賀穰、平池修、鶴賀哲史、宮本雄一郎、森繭代	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	
	----- 7

# I. 研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（女性の健康の包括的支援総合研究事業）

令和元年度総括研究報告書

女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究

研究代表者：藤井知行 東京大学医学部女性診療科・産科

## 研究要旨

女性の健康は、女性ホルモン・エストロゲンの分泌レベルにより大きく左右される特性がある点が男性と大きく異なる。女性は卵巣機能の賦活化に応じて月経・思春期発来、妊娠・出産、閉経などの順番でエストロゲンレベルが変動するが、加えて、月経困難症、月経前症候群、更年期障害などの月経関連疾患に社会経済的に大きく影響を受ける。女性ホルモン変動を意識した管理に基づいた女性の健康包括的支援は現状では政策的にも社会的にも未達成であること、日本人一般的に言えることとして、ヘルスリテラシーの確立が不十分であることを背景とし、ライフコースアプローチに基づいた女性特有の疾患に対する啓発、教育、予防などを本研究班は継続している。このような支援をおこなうことは、我が国の喫緊の課題である女性活躍、少子化解消、健康寿命の延伸の達成に大きく貢献していると考えられる。

本研究では、多診療科からの記事提供を受けた女性の健康に関連するホームページを立ち上げ、情報の発信による社会啓発およびそのフィードバックと、多診療科連携による統合的女性医療を目指し研究を継続している。ホームページの内容は継続的にアップデートされており、今や150万PV/月を超えるコンテンツとして成熟してきた。今年度はその継続だけでなく、女性の健康にまつわる相談を受けられる者の養成などを介した社会的健康支援の体制を確立することを次の目的とし、医療従事者のみならず一般人で女性の健康に携わりうる人たちにも理解、教育が出来るような多診療科的内容を含むガイドブックを発刊、配布し、ホームページをプラットフォームとしたeラーニングシステムを構築することで、女性の健康に関するアドバイスをすることが出来る医療従事者を養成することを可能にしているところである。

## 研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

大須賀穰：東京大学 医学部附属病院 女性外科教授

秋下雅弘：東京大学 医学部附属病院 老年病科教授

市橋香代：東京大学 医学部附属病院 精神神経科特任講師

菊池昭彦：岩手医科大学附属病院 産婦人科教授

北中幸子：東京大学医学部附属病院小児科准教授

鈴木真理：政策研究大学院大学保健管理センター教授

田中栄：東京大学医学部附属病院整形外科学教授

対馬ルリ子：医療法人社団 ウィミンズ・ウェルネス対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座 理事長・院長

平池修：東京大学医学部附属病院女性診療科・産科准教授

若尾文彦：国立がん研究センターがん対策情報センター センター長

## 研究目的

女性でも閉経後に生活習慣病は増加し、特に脂質異常症の頻度は女性の方が高いことから分かるように、女性の健康は、男性の健康を維持する観点とは大幅に異なった考え方をする必要はあるが、一般的にはあまり知られていない。また、人生 100 年時代とも言われるように日本人は長寿化し、女性は男性より平均寿命で 7 年長い。その一方で、健康寿命は 4 年ほどしか変わらず、結果的に平均要介護期間は男性 9 年、女性 12 年である。その原因となるのがフレイルや認知症など高齢期の病態であり、男性より女性に多い。女性の健康は出生、思春期、閉経期、また老年期に至るまでに、卵巣機能が確立し、さらに消退していく。具体的には排卵周期の確立、卵巣機能の低下と共に閉経状態に至ることの影響であるが、この女性ホルモンの分泌が大きな変動を来す点が男性と男性ホルモンの動態と大きく異なる。女性ホルモンの変動は子宮内膜症、子宮筋腫といった女性特有の疾患に大きく関与するだけでなく、月経困難症、月経前症候群および月経前不快気分障害、更年期障害などといった原因の特定し難い病気にも影響を及ぼすことから、社会、精神的にも多大な影響がみられるようになる。

急激な人口増加が望めない日本社会の現状と、持続可能な経済的発展を日本社会に求めていきたい観点から、高齢者だけでなく女性の持つパワーを社会経済活動に有効に取り込むことが昨今最重要視される課題となっている。上記のように月経および月経関連疾患、特に性差のあるような生活習慣病などにより損なわれる女性の健康を維持・改善することを積極的に支援するためには、女性を雇用する企業などの自助努力のみに頼ってはいけず、個々の女性のヘルスリテラシーを高め、必要に応じて受診勧奨をすることが必要であるため、啓発のための情報発信のツールの作成と広報の増強を目的とした。医師が監修をするという、確かなソースを全面に出すことにより、社会全体の啓発と医療・健康関係者の啓発を実践すること、これらの活動を介して我が国女性の生涯健康を支える社会基盤を構築することを主目的とした。

本研究班の班長である藤井は平成 27 年度に

女性の健康についての多彩な情報を提供するホームページ HP を立ち上げた。今年度はこれまでの年度に引き続き、HP の更新をして情報収集をすることを主目的の一つとした。HP などを活用してヘルスリテラシーを向上させることとは間接的な受診勧奨であるが、受診ではなくヘルスケアの相談を出来るようにすることが望ましい。一方、女性の疾患予防、健康増進を広く浅く対処出来るようにするため、医師、看護師などの実際に国家資格を持ったもののみでなく、一般の企業、学校などの現場にもライフコースアプローチ視点を持つある程度医療に習熟した者を配置できることが望ましい。

## 研究方法

平成 27 年度に女性の健康についての多彩な情報を提供するホームページ HP を立ち上げたが、令和元年度は引き続き HP の更新をしてユーザーの解析をおこなった。本研究のプラットフォームである HP の内容の信頼度を推測する目的で、セッション数およびページビュー PV をあげるため SEO (Search Engine Optimization : 検索結果で自らのサイトを多く露出するために行う作業) 対策を継続的に行った。また、当該年度における、HP にアクセスする人々の属性を調べる目的で、年齢層、アクセス端末の種類、セッション数、PV 数、よくアクセスされる記事に関する検討を行った。解析に関してはグーグルアナリティクスでデータを抽出した。本研究をおこなうにあたり、これらアクセスに関する情報を解析したが、これらは機器そのものから得られる属性だけであるため、個人を識別できるような個人情報を含まないことから倫理面に関して問題点はない。

女性の健康管理に関して熟知している人材を育成する目的で日本産科婦人科学会の女性のヘルスケアアドバイザー養成プログラムを活用し、その内容をさらに改変することにより看護師、保健師、その他の健康支援関係者などが女性のヘルスケアアドバイザーとして活躍できるように養成するだけでなく、医療知識の更新をも目標として e ラーニングシステムを構

築することで、女性の健康増進・向上に役立てることとした。

## 研究結果

女性を対象とした情報提供 HP「女性の健康推進室ヘルスラボ」とそのアクセス内容に関する研究

本ホームページ HP はライフステージ別女性の健康ガイドという大項目から、小児期・思春期、成人期、更年期、老年期、妊娠・出産、という小項目に移動出来るようにしているが、大きなスタイル変更はない。新規記事の投入は「お知らせ一覧」(<http://w-health.jp/information/>)からおこなっており、女性の健康に関連した記事の投入をしている。新たに始めた事業としては、「ヘルスケアラボ 健康相談窓口」

(<http://w-health.jp/information/detail54/>および <http://w-health.jp/consultation/>)で、あなたの健康に関連した質問に答えます、ということを書りにした双方向性のものである。

「女性の健康推進室ヘルスラボ」の紹介を、第92回日本内分泌学会学術集会(2019年6月仙台市)、第20回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会(9月港区)、第57回全国大学保健管理集会(2019年10月札幌市)、第23回日本摂食障害学会学術集会(2019年11月小平市)で行った。

### 1) 女性を対象とした情報提供 HP とそのアクセス内容に関する研究

2016年3月にHPが開設され2019年12月末までのHPへのアクセスに関するデータを解析し、デバイス別セッション数(ユーザーがアクセスした回数)および年齢別月間セッション数からみたユーザー属性を検討した。概ね25~45歳までのiOSを用いる女性ユーザーというのが本HP閲覧の典型層であり、24歳以下の若年層、55歳以上にリーチできていない傾向が明らかである。アクセスの重要な指標であるページビューPV数(サイト内のページが表示された回数)は、2019年4~9月までの低迷から、10月以降著しい伸長があり、月間PV数は250万にまで到達している。仙台放送:仙台いろはのコラム掲載依頼、市川市保健センター:セルフチェックのリンク貼り依頼、リトル・ママフェス

タ東京 2019 でのリーフレット配布(豊島区後援 来場者2日間で16000人見込み)、「医療のかかり方・女性の健康に関する世論調査」に使用(広島商工労働局より冊子の紹介)など、全国的に色々なメディアからの依頼が増えてきたのが最大の特徴である。

### デバイス別セッション数および年齢別月間セッション数からみたユーザー属性

2019年12月における年齢別にみたユーザー属性は、18~24歳(12.69%)、25~34歳(35.00%)、35~44歳(32.45%)、45~54歳(13.69%)、55~64歳(4.40%)、65歳以上(1.76%)という状況であり、性別としては女性が84.6%であることから、概ね生殖可能年齢女性が主だったユーザーといえる(図1)。以前と比較すると、45~54歳の層へのアプローチが増えたようである。情報にアクセスする手段としては、圧倒的にモバイル端末・スマートフォンであり、タブレット端末やPCによるアクセスは乏しい。新規ユーザーは88.44%を占めており、検索エンジンから流入してくるユーザーが多いことを考慮すると、流動層を多く確保していること、検索で上位に来ることが推測可能であるためSEO対策は十分であることが考えられた(図1)。また2019年の男女、年齢層でみたサイト訪問数(図2)によると、男性の層で健闘しているのが25~34、および35~44歳である。この年齢層は社会的活動において中心になりやすいことがあり、妊娠・出産との関連も大きく考えられる層でもあることから、男性への訴求も視野に入れるべき時期に来ていることが伺えた。

### HPを訪問した人数、セッション数とページビュー数

月間を区切りとして基本情報を収集している。本HPを訪問した延べ人数は、基本的に緩徐に時間の経過とともに増加してきていたが、2018年8~10月くらいを期に、明確な理由がわからないまま顕著な伸びを示した。2019年は4月から9月までのPVの伸びが悪く、新記事投入も特に効果がなかったが、その後年末にかけて大きな伸びをみている(図3)。セッション数(図4)とPV数は、月例ユーザー数(図5)とほぼ平行したような推移となっており、本HP内容が興味深く、色々なページを覗くとい

う行動が発生するとセッション数が増えるため、2018年後半はセッション数の増加があまりなかった印象であるが、それと比較して2019年末はセッション数の顕著な伸びが示されている(図4)。セッション数/PV数はセッションつまり1アクセスに対してどれくらいページを閲覧するかの指標となることから、本サイトの性質上なるべく多数のページを見てから離脱するユーザーが増えることが望ましいが、2018年～2019年での推移でみると、概ね1.6ページくらいの閲覧でユーザーが離脱することが伺える(図6)。サイト内を長時間回遊させることが大きな目標である。これはある程度内容を循環させるための導線を引くことで対応したいが、大きな変化が見られず比較的に低下傾向のみが目立っていることから推測すると、このサイトを用いたコンテンツ内容の大きな変化が必要である。新規ユーザーとリピーターユーザーの比率の推移をみている(図7)が、2019年に入りリピーターが増えている傾向が見て取れた。通常の販売などでいわれるeコマースなどでは理想的なリピーター：新規比率は2:8と言われており、2割の重要な顧客が8割の利益を生み出すと言われている、しかし、将来のことを考慮すると、リピーターは必要であろう。

自然検索からの流入数が本サイトに到着するユーザーの大半である。サーチエンジンはGoogleが最多で、以降Yahooに続き、その他の検索エンジンからの流入は極めて少ない(図8)。日本国内においてはGoogleが75%、Yahooが15%くらい(参照：

<https://gs.statcounter.com/search-engine-market-share/desktop/japan#monthly-201905-202005-bar>)といわれており、国産のサーチエンジンがないことが知られている。ただ、本来の日本人の人口と、韓国においてはNaverやDaumなど国産エンジンがあることが知られているため、本研究とはあまり関係がないが、日本語に特化したサーチエンジンがあってもよいかと推測された。SNSからの流入も推移が追えており、Facebookが76%を占めていることが分かった

(図9)。日本における2017年時点でのSNS利用者数は7,216万人、2018年度は7,523万人、2020年末には7,937万人まで増加すると予測

されているなか、日本でのSNSランキングはLINE、Twitter、Instagram、Facebook、TikTok、Pinterestである(参照：

<https://www.digima-japan.com/knowhow/world/15722.php>)。世界的にはFacebookが圧倒的であり、日本で一位であるLINEはTop5ランキング入りすら出来ていないことを考慮すると、サイトアクセスの強化からいって、LINEに特化した流入方法や、Instagramのような画像から入る流入に対しても強化を考えても良いのではないかということが推測された。

## 2) 多診療科連携による「女性の健康包括的支援のための診療ガイドブック」刊行・配布とeブックの作成

「女性の健康包括的支援のための診療ガイドブック」を2019年3月に書籍を発売、配布するに至った。日本産科婦人科学会(会員数約16000)を中心に、学校教育に携わる保健師、教師、母性内科学会会員などへの配布を既に終了させている。他には、第92回日本内分泌学会学術集会(2019年6月仙台市)、第20回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会(9月港区)、第57回全国大学保健管理集会(2019年10月札幌市)、第23回日本摂食障害学会学術集会(2019年11月小平市)でガイドブックの頒布を行い、2020年3月21～22日開催予定の第34回日本助産師学会学術集会(新潟市)は新型コロナウイルス感染症のためWeb講演になったが、希望者にガイドブックを送付した。初稿の校正を終えたため、HP上での配布をeブックの形でおこなった。

(<https://w-health.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjoyNzg1Mn0=&detailFlg=0>)

文字の検索機能、付箋が付けられる、など、ユーザーの視点に立った機能を付加している。

## 3) 健康支援教育プログラムと健康相談員の養成を目的としたeラーニングシステム構築

日本産科婦人科学会の協力のもと、日本産科婦人科学会が事業としておこなっていた、思春期から更年期・老年期まで一生を通した「女性のヘルスケアアドバイザー」養成用の資料を改

変引用し、内容を多診療科的に拡大することにより、看護師、保健師、教師、企業の健康関連相談窓口担当者など、若年から中高年、老年期にいたるまでの健康支援関係者などが、女性のヘルスケアアドバイザーとして活躍できるようにし、女性の健康増進・向上に役立てることとした。テストページは以下の手順でログイン出来るようにしてある。

■フロントページ

URL : <http://stg.w-health.jp/elearning/>

上記アクセス後、ID と Password を求められるので、ログイン画面で下記を入力

ID : 958371

Password : testtest

ログインすると、全部で4箇所に区切られたeラーニングが見られる。新たなeラーニングコンテンツとして、「働く女性のメンタルヘルス」と題したコンテンツを作成した。内容は、働く女性は増えている、キャリア・ストレスとは、女性の妊娠・出産にまつわるストレス、ダブルケアについて、働く女性のメンタルヘルス不調、女性の多様なライフコースとした。それぞれに対して、理解度チェックのため全10問のQ&Aを作成した。

今後毎年または2年おきくらいを目安にコンテンツの入れ替えを図るつもりにしており、2020年度には大幅改定をおこなう予定にしている。「女性のヘルスケアアドバイザープログラム」は日本産科婦人科学会から日本女性医学学会へと所管が移ったので、日本女性医学学会教育委員会関係者と連携を取りながら、新たなページに改定し、記事の方も増やしていく予定である。また、設定項目に関してはガイドブックとの整合性を取るため、2020年度には作業に着手する予定である。

4) 女性の健康維持実地例収集

2019年度は女性健康維持の実地例収集として、なでしこ銘柄企業を中心に行った企業調査に続き、地方自治体を対象とした調査を企画した。茨城県総務部人事課および八王子市役所総務部職員係に調査依頼を行なったが、事例収集を行うには至らなかった。茨城県においては、人事課に調査を依頼していたが、調査内容が多岐にわたるため複数部署に及んでしまうこと

が要因であった。八王子市役所は、市民への子宮がん検診において先進的な取り組みを行なっているが、市役所職員は八王子市外から通勤しているものも多く、職場検診としては特徴があるわけではないとのことだった。

D.考察

女性の健康包括的支援に関する情報提供を効率的に行うわれわれが作成したHPの世間の認知度も飛躍的な上昇を認めるに至り、世間への定着は着々と進んでいると考えられる。本HPはソースとして十分信頼に足ることを売りにしており、内容としても確固としたということが世間へ理解されたものと考えられる。リーチ出来ている主な層は若年層女性であることから、中長期的にみると、その世代にアプローチ出来ていることは、最終的には日本全体でのヘルスリテラシーを向上させることには繋がる。ただし最終的に浸透が完成するまでには相当な時間がかかることが容易に予想されるため、長期的視野にたつてHPの維持および更新をしなければいけないことが予想される。

定着した固定ユーザーをHPに訪問してもらうためには記事内容の更新が必須である。記事の更新はSEO対策としても重要であるが、女性の健康に関する話題はいつも最新のものがあられるわけではない。また、多くのサイトがそうであるように双方向性は重要であるが、これまでのヘルスケアラボにはその部分がなかった。それを打開する試みとして「ヘルスケアラボ健康相談窓口」というコーナーを作成してみた。何点か重要な質問は来たので意義はあるだろうが、そもそも多くの質問を受け付け、それに対する応答を反復することには無理がある。HPとして今後必要なこととしては、女性の健康相談員(仮称)を継続的に育成することであるがそのためにはヘルスリテラシーの向上が第一義である。HPの継続的な記事の更新だけでは不十分であるため、柔軟なニーズの拾い上げが必須である。さもないと新しいコンテンツ、若年層にも響くアンケート、質問などの類を用意出来ないため、見聞を深めることで最新の情報を入手し、検索条件のトップヒットを継続するようにしたい。

次に必要なのは本HPを元にした双方向性の

相談体制を確立することと推測される。このホームページではリンク機能も活用して各種の“女性の健康”に関する情報を統合するだけでなく、e-learning 機能、アンケート機能など多彩な機能を持たせ、後に記載する相談支援体制などにおいても双方向性のツールとして活用することが望ましい。先述のように新しい記事の投下だけでは限界がある。HP はアクセス記録などを追跡することが可能であるため、毎月のアクセス記録から、受け手のニーズを拾い上げて、改善に繋げる作業を持続的に行なう必要性が改めて認識された。また、男性層への定着がある程度存在することが伺えた。男性へのアプローチをする最初的一步としてはプレコンセプションケアを切り口にしたものが挙げられよう。2020 年度における活動に参考とした。

#### E. 結論

我々の活動は、HP に掲載してある情報をベースとして、ガイドブック、eラーニング教材などの周辺教材を複合的に活用して女性の健康を支えることが目標である。医療に関連した人、一般人の中でも女性の健康に携わる機会の多い人達に対する啓発を進めていくことが第一義である。HP を基盤とした健康相談は、直接的なものをまずは試してみた。相談は受付可能であるが、回数なども考慮すると直接的なものには限界があると考え。しかし相談可能な人々の育成が行われるようになれば、女性の健康包括的支援のための相談体制が確保されるため、一般人においてのヘルスリテラシーの向上を図ることが差し当たって必要である。本 HP は継続的に幅広い層からのアクセスを得ていることから、その有用性は示されていると考える。また、HP の特性として、アクセスする人物像、アクセス記録などは経時的に追跡することが可能であるため、傾向を解析して受け手のニーズを可能な限り拾い上げることが推察されるだけでなく、今後更に研究に用いることも可能である。アップデートされた最新内容のホームページの公開により、教育内容を eラーニングで習得した健康相談員などが積極的に地域住民を教育・啓発することにより、女性の心身の健康についての意識と理解が高まるこ

とが期待される。女性の健康維持に携わる人達を標的とした eラーニングシステムの実装を完了したので、将来的に教育対象を医療従事者以外の学校保健に携わる教員などにも範囲を拡張出来れば、さらに eラーニングの有用性と重要性は高まるものと考えられる。また、アクセス記録などの解析で得られる HP 関連情報をもとに、「多診療科連携による女性診療モデル」として対面診療以外のものを最終的にはオンライン診療のようなものにまで昇華させ、結果として日本全体の女性医療の水準を上げることに貢献する可能性がある。このような事業は、最終的に医療法整備、経済活動への展開という好循環に至る可能性がある。このような事業は、最終的に医療法整備、経済活動への展開という好循環に至る可能性があるため、今後も本研究を継続する必要性があらためて認識されたが、さらなる展開として、HP を活用した新たな視点でのアンケート研究をおこなうことも情報収集として必要である。

#### F. 健康危険情報 特になし

業績目録

研究成果の刊行に関する一覧表：刊行書籍又は雑誌名（雑誌の時は、雑誌名、巻数、論文名）、刊行年月日、刊行書店名、執筆者氏名

＜研究代表者 藤井 知行＞

1. Samejima T, Nagamatsu T, Iriyama T, Nakayama T, Seyama T, Sayama S, Kumasawa K, Komatsu A, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. Impact of additional risk factors on the incidence of preterm delivery among pregnant women diagnosed with short cervix. *Taiwan J Obstet Gynecol.* 2020 Mar;59(2):195-199. doi: 10.1016/j.tjog.2020.01.005.
2. Kinoshita S, Kawauchi S, Nagamatsu T, Nishidate I, Fujii T, Sato S. Real-time Monitoring of Hypoxic-Ischemic Brain Damage in Neonatal Rats Using Diffuse Light Reflectance Spectroscopy. *Reprod Sci.* 2020 Jan;27(1):172-181. doi: 10.1007/s43032-019-00020-9. Epub 2020 Jan 1.
3. Yoshikawa M, Iriyama T, Suzuki K, Sayama S, Tsuruga T, Kumasawa K, Nagamatsu T, Homma K, Naguro I, Osuga Y, Ichijo H, Fujii T. ASK1 promotes uterine inflammation leading to pathological preterm birth. *Sci Rep.* 2020 Feb 5;10(1):1887. doi: 10.1038/s41598-020-58653-9.
4. Taguchi A, Hara K, Tomio J, Kawana K, Tanaka T, Baba S, Kawata A, Eguchi S, Tsuruga T, Mori M, Adachi K, Nagamatsu T, Oda K, Yasugi T, Osuga Y, Fujii T. Multistate Markov Model to Predict the Prognosis of High-Risk Human Papillomavirus-Related Cervical Lesions. *Cancers (Basel).* 2020 Jan 22;12(2). pii: E270. doi: 10.3390/cancers12020270.
5. Takeuchi M, Tanikawa M, Nagasaka K, Oda K, Kawata Y, Oki S, Agapiti C, Sone K, Miyagawa Y, Hiraike H, Wada-Hiraike O, Kuramoto H, Ayabe T, Osuga Y, Fujii T. Anti-Tumor Effect of Inhibition of DNA Damage Response Proteins, ATM and ATR, in Endometrial Cancer Cells. *Cancers (Basel).* 2019 Dec 1;11(12). pii: E1913. doi: 10.3390/cancers11121913.
6. Makii C, Ikeda Y, Oda K, Uehara Y, Nishijima A, Koso T, Kawata Y, Kashiyama T, Miyasaka A, Sone K, Tanikawa M, Tsuruga T, Mori-Uchino M, Nagasaka K, Matsumoto Y, Wada-Hiraike O, Kawana K, Hasegawa K, Fujiwara K, Aburatani H, Osuga Y, Fujii T. Anti-tumor activity of dual inhibition of phosphatidylinositol 3-kinase and MDM2 against clear cell ovarian carcinoma. *Gynecol Oncol.* 2019;155(2):331-339. doi: 10.1016/j.ygyno.2019.08.028. Epub 2019 Sep 5.
7. Aotsuka A, Matsumoto Y, Arimoto T, Kawata A, Ogishima J, Taguchi A, Tanikawa M, Sone K, Mori-Uchino M, Tsuruga T, Oda K, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. Interleukin-17 is associated with expression of programmed cell death 1 ligand 1 in ovarian carcinoma. *Cancer Sci.* 2019 Oct;110(10):3068-3078. doi: 10.1111/cas.14174. Epub 2019 Sep 24.
8. Fujii T, Nagamatsu T, Schust DJ, Ichikawa M, Kumasawa K, Yabe S, Iriyama T, Hirota Y, Osuga Y, Aoki J, Yatomi Y, Fujii T. Placental expression of lysophosphatidic acid receptors in normal pregnancy and preeclampsia. *Am J Reprod Immunol.* 2019 Nov;82(5):e13176. doi: 10.1111/aji.13176. Epub 2019 Aug 16.
9. Morita K, Ono Y, Takeshita T, Sugi T, Fujii T, Yamada H, Nakatsuka M, Fukui A, Saito S. Risk Factors and Outcomes of Recurrent Pregnancy Loss in Japan. *J Obstet Gynaecol Res.* 2019 Oct;45(10):1997-2006. doi: 10.1111/jog.14083. Epub 2019 Aug 9.
10. Iriyama T, Wang G, Yoshikawa M, Mimura N, Matsui H, Sayama S, Kumasawa K, Nagamatsu T, Koga K, Kotani T, Niimi K, Yamamoto E, Kellems RE, Xia Y, Osuga Y, Fujii T. Increased LIGHT leading to sFlt-1 elevation underlies the pathogenic link between hydatidiform mole and preeclampsia. *Sci Rep.* 2019 Jul 12;9(1):10107. doi: 10.1038/s41598-019-46660-4.
11. Nose-Ogura S, Yoshino O, Dohi M, Kigawa M, Harada M, Hiraike O, Onda T, Osuga Y, Fujii T, Saito S. Risk factors of stress fractures due to the female athlete triad: Differences in teens and twenties. *Scand J Med Sci Sports.* 2019 Oct;29(10):1501-1510. doi: 10.1111/sms.13464. Epub 2019 Jun 9.
12. Kojima M, Sone K, Oda K, Hamamoto R, Kaneko S, Oki S, Kukita A, Machino H, Honjoh H,

Kawata Y, Kashiyama T, Asada K, Tanikawa M, Mori-Uchino M, Tsuruga T, Nagasaka K, Matsumoto Y, Wada-Hiraike O, Osuga Y, Fujii T. The histone methyltransferase WHSC1 is regulated by EZH2 and is important for ovarian clear cell carcinoma cell proliferation. *BMC Cancer*. 2019 May 15;19(1):455. doi: 10.1186/s12885-019-5638-9.

13. Akiba N, Iriyama T, Nakayama T, Seyama T, Sayama S, Kumasawa K, Komatsu A, Yabe S, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. Ultrasonographic vascularity assessment for predicting future severe hemorrhage in retained products of conception after second-trimester abortion. *J Matern Fetal Neonatal Med*. 2019;1-7. doi:10.1080/14767058.2019.1610739.

14. Kukita A, Sone K, Oda K, Hamamoto R, Kaneko S, Komatsu M, Wada M, Honjoh H, Kawata Y, Kojima M, Oki S, Sato M, Asada K, Taguchi A, Miyasaka A, Tanikawa M, Nagasaka K, Matsumoto Y, Wada-Hiraike O, Osuga Y, Fujii T. Histone methyltransferase SMYD2 selective inhibitor LLY-507 in combination with poly ADP ribose polymerase inhibitor has therapeutic potential against high-grade serous ovarian carcinomas. *Biochem Biophys Res Commun*. 2019 May 28;513(2):340-346. doi: 10.1016/j.bbrc.2019.03.155. Epub 2019 Apr 4.

15. Nose S, Yoshino O, Nomoto K, Harada M, Dohi M, Kawahara T, Osuga Y, Fujii T, Saito S. Serum Brain-derived Neurotrophic Factor Levels Mirror Bone Mineral Density in Amenorrhic and Eumenorrhic Athletes. *Int J Sports Med*. 2019 Apr;40(4):276-282. doi: 10.1055/a-0835-6119. Epub 2019 Feb 21.

<研究分担者 大須賀 穰>

1. Mandai M, Osuga Y, Hirata T, Enomoto T, Nakai H, Honda R, Taniguchi F, Katabuchi H. 1. Cancers associated with extraovarian endometriosis at less common/rare sites: A nationwide survey in Japan. *J Obstet Gynaecol Res*. 2020 Mar 25. doi: 10.1111/jog.14244.

2. Osuga Y, Hayashi K, Kanda S. A multicenter, randomized, placebo-controlled, double-blind,

comparative study of dienogest at 1 mg/day in patients with primary and secondary dysmenorrhea. *Fertil Steril*. 2020 Mar;113(3):627-635.e1. doi: 10.1016/j.fertnstert

3. Azhary JMK, Harada M, Kunitomi C, Kusamoto A, Takahashi N, Nose E, Oi N, Wada-Hiraike O, Urata Y, Hirata T, Hirota Y, Koga K, Fujii T, Osuga Y.

Androgens Increase Accumulation of Advanced Glycation End Products in Granulosa Cells by Activating ER Stress in PCOS. *Endocrinology*. 2020 Feb 1;161(2):bqaa015. doi: 10.1210/endo/bqaa015. PMID: 32020188

4. Matsuo M, Hirota Y, Fukui Y, Fujita H, Saito-Fujita T, Kaku T, Gebril M, Hirata T, Akaeda S, Hiraoka T, Tanaka T, Haraguchi H, Saito-Kanatani M, Shimizu-Hirota R, Takeda N, Fujii T, Osuga Y. Levonorgestrel Inhibits Embryo Attachment by Eliminating Uterine Induction of Leukemia Inhibitory Factor. *Endocrinology*. 2020;161(2):bqz005. doi: 10.1210/endo/bqz005. PMID: 31638694

5. Takahashi N, Harada M, Oi N, Izumi G, Momozawa K, Matsuzawa A, Tokunaga Y, Hirata T, Fujii T, Osuga Y. Preclinical validation of the new vitrification device possessing a feature of absorbing excess vitrification solution for the cryopreservation of human embryos. *J Obstet Gynaecol Res*. 2020 Feb;46(2):302-309. doi: 10.1111/jog.14176. Epub 2020 Jan 10. PMID: 31922309

6. Urata Y, Salehi R, Lima PDA, Osuga Y, Tsang BK. Neuropeptide Y regulates proliferation and apoptosis in granulosa cells in a follicular stage-dependent manner. *J Ovarian Res*. 2020 Jan 8;13(1):5. doi: 10.1186/s13048-019-0608-z. PMID: 31915051 Free PMC article.

7. Ono Y, Yoshino O, Hiraoka T, Akiyama I, Sato E, Ito M, Kobayashi M, Nakashima A, Wada S, Onda T, Unno N, Osuga Y. IL-33 Exacerbates Endometriotic Lesions via Polarizing Peritoneal Macrophages to M2 Subtype. *Reprod Sci*. 2020 Mar;27(3):869-876. doi: 10.1007/s43032-019-00090-9. Epub 2020 Jan 7. PMID: 32046466

8. Ma S, Hirata T, Arakawa T, Sun H, Neriishi K, Fukuda S, Nakazawa A, Wang Y, Harada M, Hirota Y, Koga K, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Expression of ALDH1A Isozymes in Human Endometrium with and without Endometriosis and in Ovarian Endometrioma. *Reprod Sci.* 2020 Jan;27(1):443-452. doi: 10.1007/s43032-019-00041-4. Epub 2020 Jan 1. PMID: 32046407
9. Kunitomi C, Harada M, Takahashi N, Azhary JMK, Kusamoto A, Nose E, Oi N, Takeuchi A, Wada-Hiraike O, Hirata T, Hirota Y, Koga K, Fujii T, Osuga Y. Activation of endoplasmic reticulum stress mediates oxidative stress-induced apoptosis of granulosa cells in ovaries affected by endometrioma. *Mol Hum Reprod.* 2020 Jan 1;26(1):40-52. doi: 10.1093/molehr/gaz066. PMID: 31869409
10. Inoue S, Hirota Y, Ueno T, Fukui Y, Yoshida E, Hayashi T, Kojima S, Takeyama R, Hashimoto T, Kiyono T, Ikemura M, Taguchi A, Tanaka T, Tanaka Y, Sakata S, Takeuchi K, Muraoka A, Osuka S, Saito T, Oda K, Osuga Y, Terao Y, Kawazu M, Mano H. Uterine adenomyosis is an oligoclonal disorder associated with KRAS mutations. *Nat Commun.* 2019 Dec 19;10(1):5785. doi:10.1038/s41467-019-13708-y. PMID:31857578
11. Maeda E, Nomura K, Hiraike O, Sugimori H, Kinoshita A, Osuga Y. Domestic work stress and self-rated psychological health among women: a cross-sectional study in Japan. *Environ Health Prev Med.* 2019 Dec 17;24(1):75. doi: 10.1186/s12199-019-0833-5. PMID: 31847805 Free PMC article.
12. Takahashi N, Harada M, Azhary JMK, Kunitomi C, Nose E, Terao H, Koike H, Wada-Hiraike O, Hirata T, Hirota Y, Koga K, Fujii T, Osuga Y. Accumulation of advanced glycation end products in follicles is associated with poor oocyte developmental competence. *Mol Hum Reprod.* 2019 Nov 30;25(11):684-694. doi: 10.1093/molehr/gaz050. PMID: 31504800
13. Takahashi N, Yoshino O, Hayashida E, Nakamura M, Hori M, Iwahata S, Onda T, Unno N, Fujii T, Osuga Y. Quantitative analysis of ovarian cysts and tumors by using T2 star mapping. *J Obstet Gynaecol Res.* 2020 Jan;46(1):140-146. doi: 10.1111/jog.14157. Epub 2019 Nov 19. PMID: 31742851
14. Osuga Y, Hayashi K, Kanda S. Evaluation of the efficacy, safety, and clinically recommended dose of dienogest in the treatment of primary dysmenorrhea: a randomized, double-blind, multicenter, placebo-controlled study. *Fertil Steril.* 2020 Jan;113(1):167-175. doi: 10.1016/j.fertnstert.2019.09.014. Epub 2019 Nov 11. PMID: 31727415
15. Takeuchi A, Koga K, Satake E, Makabe T, Taguchi A, Miyashita M, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Yoshino O, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Endometriosis Triggers Excessive Activation of Primordial Follicles via PI3K-PTEN-Akt-Foxo3 Pathway. *J Clin Endocrinol Metab.* 2019 Nov 1;104(11):5547-5554. doi: 10.1210/jc.2019-00281. PMID: 31219551
16. Nakazawa A, Hirata T, Arakawa T, Nagashima N, Fukuda S, Neriishi K, Harada M, Hirota Y, Koga K, Wada-Hiraike O, Koizumi Y, Fujii T, Irahara M, Osuga Y. A survey of public attitudes toward uterus transplantation, surrogacy, and adoption in Japan. *PLoS One.* 2019 Oct 30;14(10):e0223571. doi: 10.1371/journal.pone.0223571. eCollection 2019. PMID: 31665149 Free PMC article.
17. Osuga Y, Enya K, Kudou K, Hoshiai H. Relugolix, a novel oral gonadotropin-releasing hormone antagonist, in the treatment of pain symptoms associated with uterine fibroids: a randomized, placebo-controlled, phase 3 study in Japanese women. *Fertil Steril.* 2019 Nov;112(5):922-929.e2. doi: 10.1016/j.fertnstert.2019.07.013. Epub 2019 Oct 6. PMID: 31594635
18. Osuga Y, Akira S, Irahara M, Iwase A, Katagiri Y, Kugu K, Terada Y, Maruyama T, Fujiwara H. Annual report of Reproductive Endocrinology Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology, 2019. *J Obstet Gynaecol Res.* 2019 Oct;45(10):1975-1979. doi: 10.1111/jog.14074. Epub 2019 Aug 9. PMID: 31397512

19. Arakawa T, Hirata T, Koga K, Neriishi K, Fukuda S, Ma S, Sun H, Nagashima N, Harada M, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Clinical aspects and management of inguinal endometriosis: A case series of 20 patients. *J Obstet Gynaecol Res.* 2019 Oct;45(10):2029-2036. doi: 10.1111/jog.14059. Epub 2019 Aug 5. PMID: 31381248
20. Sanada Y, Harada M, Kunitomi C, Kanatani M, Izumi G, Hirata T, Fujii T, Suzuki N, Morishige KI, Aoki D, Irahara M, Tsugawa K, Tanimoto M, Nishiyama H, Hosoi H, Sugiyama K, Kawai A, Osuga Y. A Japanese nationwide survey on the cryopreservation of embryos, oocytes and ovarian tissue for cancer patients. *J Obstet Gynaecol Res.* 2019 Oct;45(10):2021-2028. doi: 10.1111/jog.14073. Epub 2019 Jul 30. PMID: 31364239
21. Terao H, Wada-Hiraike O, Nagumo A, Kunitomi C, Azhary JMK, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Koga K, Fujii T, Osuga Y. Role of oxidative stress in follicular fluid on embryos of patients undergoing assisted reproductive technology treatment. *J Obstet Gynaecol Res.* 2019 Sep;45(9):1884-1891. doi: 10.1111/jog.14040. Epub 2019 Jul 1. PMID: 31257684
22. Tsuruga T, Hirata T, Akiyama I, Matsumoto Y, Oda K, Fujii T, Osuga Y. Mixed endometrioid and clear cell carcinoma arising from laparoscopic trocar site endometriosis. *J Obstet Gynaecol Res.* 2019 Aug;45(8):1613-1618. doi: 10.1111/jog.14014. Epub 2019 Jun 10. PMID: 31183953
23. Takamura M, Koga K, Emoto S, Kawai K, Osuga Y. Desmoid Tumor at the Site of Endometriosis Surgery, Coincident with the Use of Oral Contraceptives. *J Minim Invasive Gynecol.* 2019 Nov-Dec;26(7):1396-1399. doi: 10.1016/j.jmig.2019.05.021. Epub 2019 Jun 7. PMID: 31176845
24. Fukui Y, Hirota Y, Matsuo M, Gebril M, Akaeda S, Hiraoka T, Osuga Y. Uterine receptivity, embryo attachment, and embryo invasion: Multistep processes in embryo implantation. *Reprod Med Biol.* 2019 May 24;18(3):234-240. doi: 10.1002/rmb2.12280. eCollection 2019 Jul. PMID: 31312101 Free PMC article. Review.
25. Hidari T, Hirata T, Arakawa T, Koga K, Neriishi K, Fukuda S, Nakazawa A, Nagashima N, Ma S, Sun H, Takamura M, Harada M, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Contralateral ovarian endometrioma recurrence after unilateral salpingo-oophorectomy. *BMC Womens Health.* 2019 May 2;19(1):59. doi: 10.1186/s12905-019-0760-z. PMID: 31046768 Free PMC article. Clinical Trial.
26. D'Hooghe T, Fukaya T, Osuga Y, Besuyen R, López B, Holtkamp GM, Miyazaki K, Skillern L. Efficacy and safety of ASP1707 for endometriosis-associated pelvic pain: the phase II randomized controlled TERRA study. *Hum Reprod.* 2019 May 1;34(5):813-823. doi: 10.1093/humrep/dez028. PMID: 31067329 Free PMC article.
27. Hirata T, Koga K, Kitade M, Fukuda S, Neriishi K, Taniguchi F, Honda R, Takazawa N, Tanaka T, Kurihara M, Nakajima J, Horie S, Nakai H, Enomoto T, Mandai M, Narahara H, Kitawaki J, Harada T, Katabuchi H, Yoshimura K, Osuga Y. A National Survey of Umbilical Endometriosis in Japan. *J Minim Invasive Gynecol.* 2020 Jan;27(1):80-87. doi: 10.1016/j.jmig.2019.02.021. Epub 2019 Apr 6. PMID: 30965115
28. Yoshino O, Yamada-Nomoto K, Kano K, Ono Y, Kobayashi M, Ito M, Yoneda S, Nakashima A, Shima T, Onda T, Osuga Y, Aoki J, Saito S. Sphingosine 1 Phosphate (S1P) Increased IL-6 Expression and Cell Growth in Endometriotic Cells. *Reprod Sci.* 2019 Nov;26(11):1460-1467. doi: 10.1177/1933719119828112. Epub 2019 Feb 19. PMID: 30782093
29. Osuga Y, Torng PL, Jeng CJ. Clinical studies investigating the use of leuprorelin in Asian women with endometriosis: a review. *J Obstet Gynaecol.* 2019 Apr;39(3):291-296. doi: 10.1080/01443615.2018.1460584. Epub 2019 Jan 17. PMID: 30653368 Review.
30. Miyashita M, Koga K, Takeuchi A, Makabe T, Taguchi A, Urata Y, Izumi G, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Yoshino O, Fujii T, Osuga Y. Expression of Nerve

Injury-Induced Protein1 (Ninj1) in Endometriosis. *Reprod Sci.* 2019 Aug;26(8):1105-1110. doi: 10.1177/1933719118806395. Epub 2018 Oct 16. PMID: 30326781

31.子宮粘膜下筋腫に対し GnRH アンタゴニストを使用して多量出血をきたした1例 石沢 千尋(東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科), 浦田 陽子, 真壁 友子, 原口 広史, 矢野 倫子, 松尾 光徳, 宮下 真理子, 金谷 真由子, 森嶋 かほる, 廣田 泰, 大須賀 穰, 藤井 知行 東京産科婦人科学会会誌(2186-0599)69 巻 1 号 Page23-28(2020.01)

32.【進化する子宮筋腫診療-診断から最新治療・合併症まで】薬物療法 漢方,GnRH 製剤の使い方 経口剤レルゴリクスを含めて 大須賀 穰(東京大学 大学院医学系研究科産婦人科学) 臨床婦人科産科(0386-9865)73 巻 10 号 Page959-964(2019.10)

33.【広がる子宮内膜症の世界】病因・病態の最新知見 子宮内膜症における神経因子 吉野 修(北里大学 産婦人科), 大須賀 穰, 齋藤 滋, 恩田 貴志 産科と婦人科(0386-9792)86 巻 7 号 Page873-877(2019.07)

34.月経随伴症状を有する子宮腺筋症に対する子宮腺筋症病巣除去術の効果 賀来 哲明(東京大学 医学部産婦人科学教室), 廣田 泰, 福井 大和, 大村 恵里香, 赤枝 俊, 平岡 毅大, 松尾 光徳, 原口 広史, 大須賀 穰, 藤井 知行 産科と婦人科(0386-9792)86 巻 6 号 Page767-771(2019.06)

35.注目の製品 レルミナ錠 40mg 大須賀 穰(東京大学 大学院医学系研究科産婦人科学講座) 産科と婦人科(0386-9792)86 巻 Suppl. Page367-372(2019.04)

36.新時代のホルモン療法マニュアル【(第1章)総論 GnRH アナログ製剤の種類と特徴 大須賀 穰(東京大学 大学院医学系研究科産婦人科学講座) 産科と婦人科(0386-9792)86 巻 Suppl. Page6-12(2019.04)

<研究分担者 秋下 雅弘>

1. Yakabe M, Kojima T, Okumura T, Takiyama S, Umeda-Kameyama Y, Akishita M, Ogawa S. Serum free testosterone levels are positively correlated with skeletal muscle mass in older women aged

over 75 years. *Geriatr Gerontol Int.* 2019;19:460-461. doi: 10.1111/ggi.13642.

2. Son BK, Akishita M, Uchiyama E, Imaeda S, Taniguchi S, Sumikawa Y, Unyaporn S, Matsubara T, Tanaka S, Tanaka T, Otsuki T, Okata J, Iijima K. Multiple turns: Potential risk factor for falls on the way to the toilet. *Geriatr Gerontol Int.* 2019;19:1293-1295. doi: 10.1111/ggi.13806.

3. Shibasaki K, Kin SK, Yamada S, Akishita M, Ogawa S. Sex-related differences in the association between frailty and dietary consumption in Japanese older people: a cross-sectional study. *BMC Geriatr.* 2019;19:211. doi: 10.1186/s12877-019-1229-5.

4. Ishii M, Yamaguchi Y, Hamaya H, Ogawa S, Imura M, Akishita M. Characteristics of factors for decreased lung function in elderly patients with type 2 diabetes. *Sci Rep.* 2019;9:20206. doi: 10.1038/s41598-019-56759-3.

5. Suthuvoravut U, Takahashi K, Murayama H, Tanaka T, Akishita M, Iijima K. Association between Traditional Japanese Diet Washoku and Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults: Findings from the Kashiwa Study. *J Nutr Health Aging.* 2020;24:282-289. doi: 10.1007/s12603-020-1318-3.

<研究分担者 市橋 香代>

6. Takaesu, Y., Watanabe, K., Numata S., Iwata, M., Kudo N., Oishi, S., Takizawa, T., Nemoto, K., Yasuda, Y., Tagata, H., Tsuboi, T., Tsujino, N., Hashimoto, N., Matsui, Y., Hori, H., Yamamori, H., Sugiyama, N., Suwa, T., Kishimoto, T., Hishimoto, A., Usami, M., Furihata, R., Iwamoto, K., Fujishiro, H., Nakamura, T., Mizuno, K., Inagaki, T., Katsumoto, E., Tomita, H., Ohi, K., Muraoka, H., Atake, K., Iida, H., Nagasawa, T., Fujita, J., Yamamura, S., Onitsuka, T., Murata, A., Takayanagi, Y., Noda, H., Matsumura, Y., Takezawa, K., Iga, J., Ichihashi, K., Ogasawara, K., Yamada, H., Inada, K., Hashimoto, R. Improvement of psychiatrists' clinical knowledge of the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders using the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric

Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study. *Psychiatry and clinical neurosciences*. 2019Oct : 73(10): 642-8.

7. 市橋香代 本人及び家族に対して行う心理教育の可能性. *日本社会精神医学会雑誌* 28 page403-406(2019)

<研究分担者 菊池 昭彦>

1. Chiba T, Maeda T, Fujita Y, Takeda R, Kikuchi A, Kudo K: Stress-induced suppression of milk protein is involved in a noradrenergic mechanism in the mammary gland. *Endocrinology* 160:2074-2084, 2019 Sep. doi: 10.1210/en.2019-00300.

2. Natori N, Oyama R, Baba T, Isurugi T, Chida H, Haba G, Sasaki Y, Kanasugi T, Itamochi H, Kikuchi A: Evaluation of fetal vertical function using velocity vector imaging throughout gestational age. *Hypertens Res Pregnancy* 7:62-69, 2019

3. Kanasugi T, Sasaki Y, Haba G, Oyama R, Kikuchi A\*: Successive monochorionic twin pregnancies after assisted reproductive technology complicated by repeated twin reversed arterial perfusion sequence. *Congenital Anomalies (in press)*

<研究分担者 北中 幸子>

1. Oda Y, Tamura M, Kitanaka S. Familial dysalbuminemic hyperthyroxinemia in a 12-year-old girl. *Pediatr Int*. 2019 May;61(5):520-522. doi: 10.1111/ped.13839.

2. Okumura T, Horie Y, Lai CY, Lin HT, Shoda H, Natsumoto B, Fujio K, Kumaki E, Okano T, Ono S, Tanita K, Morio T, Kanegane H, Hasegawa H, Mizoguchi F, Kawahata K, Kohsaka H, Moritake H, Nunoi H, Waki H, Tamaru SI, Sasako T, Yamauchi T, Kadowaki T, Tanaka H, Kitanaka S, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Otsu M. Robust and highly efficient hiPSC generation from patient non-mobilized peripheral blood-derived CD34+ cells using the auto-erasable Sendai virus vector. *Stem Cell Res Ther*. 2019 Jun 24;10(1):185. doi: 10.1186/s13287-019-1273-2

<研究分担者 田中 栄>

1. Okada K, Mori D, Makii Y, Nakamoto H, Murahashi Y, Yano F, Chang SH, Taniguchi Y, Kobayashi H, Semba H, Takeda N, Piao W, Hanaoka K, Nagano T, Tanaka S, Saito T. Hypoxia-inducible factor-1 alpha maintains mouse articular cartilage through suppression of NF-κB signaling. *Sci Rep*. 2020 Mar 25;10(1):5425. doi: 10.1038/s41598-020-62463-4.

2. Oshima Y, Doi T, Kato S, Taniguchi Y, Matsubayashi Y, Nakajima K, Oguchi F, Oka H, Hayashi N, Tanaka S. Association between ossification of the longitudinal ligament of the cervical spine and arteriosclerosis in the carotid artery. *Sci Rep*. 2020 Feb 25;10(1):3369. doi: 10.1038/s41598-020-60248-3.

3. Doi T, Hirai S, Kaneko M, Ohashi S, Nakajima K, Oguchi F, Kato S, Taniguchi Y, Matsubayashi Y, Hayashi N, Tanaka S, Oshima Y. Bone strength of the proximal femur in healthy subjects with ossification of the posterior longitudinal ligament. *Osteoporos Int*. 2020 Apr;31(4):757-763. doi: 10.1007/s00198-019-05253-7

4. Yoshimura N, Muraki S, Iidaka T, Oka H, Horii C, Kawaguchi H, Akune T, Nakamura K, Tanaka S. Prevalence and co-existence of locomotive syndrome, sarcopenia, and frailty: the third survey of Research on Osteoarthritis/Osteoporosis Against Disability (ROAD) study. *J Bone Miner Metab*. 2019 Nov;37(6):1058-1066. doi: 10.1007/s00774-019-01012-0

5. Horii C, Asai Y, Iidaka T, Muraki S, Oka H, Tsutsui S, Hashizume H, Yamada H, Yoshida M, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Tanaka S, Yoshimura N. Differences in prevalence and associated factors between mild and severe vertebral fractures in Japanese men and women: the third survey of the ROAD study. *J Bone Miner Metab*. 2019 Sep;37(5):844-853. doi: 10.1007/s00774-018-0981-5.

<研究分担者 対馬 ルリ子>

1. 熊谷 千津, 対馬 ルリ子, 早田 輝子, 齋藤 碧, 尾崎 勇毅, 川口 光倫. 継続的に精油の香りを纏うライフスタイルが閉経移行期の女性

に与える影響. *Japan Journal of Aromatherapy*. 20(1): 1-12. 2019.

2. 対馬 ルリ子, 大柴 葉子, 阪野 浩司. 薬用石鹸の外陰膣カンジダ症患者への使用経験. *Progress In Medicine*. 39: 199-205.2019.

<研究分担者 平池 修>

1. Takeuchi A, Koga K, Tokita Y, Matsumoto T, Satake E, Taguchi A, Makabe T, Miyashita M, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. The effects of tokishakuyakusan, a traditional Japanese medicine (kampo), ferulic acid and paeoniflorin, on human endometriotic stromal cells and peritoneal macrophages. *J Reprod Immunol*. 2020 Feb 21;139:103104. doi: 10.1016/j.jri.2020.103104. Epub ahead of print. PMID: 32172005.
2. Ma S, Hirata T, Arakawa T, Sun H, Neriishi K, Fukuda S, Nakazawa A, Wang Y, Harada M, Hirota Y, Koga K, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Expression of ALDH1A Isozymes in Human Endometrium with and without Endometriosis and in Ovarian Endometrioma. *Reprod Sci*. 2020 Jan;27(1):443-452. doi: 10.1007/s43032-019-00041-4. Epub 2020 Jan 1. PMID: 32046407.
3. Azhary JMK, Harada M, Kunitomi C, Kusamoto A, Takahashi N, Nose E, Oi N, Wada-Hiraike O, Urata Y, Hirata T, Hirota Y, Koga K, Fujii T, Osuga Y. Androgens Increase Accumulation of Advanced Glycation End Products in Granulosa Cells by Activating ER Stress in PCOS. *Endocrinology*. 2020 Feb 1;161(2):bqaa015. doi: 10.1210/endocr/bqaa015. PMID: 32020188.
4. Kunitomi C, Harada M, Takahashi N, Azhary JMK, Kusamoto A, Nose E, Oi N, Takeuchi A, Wada-Hiraike O, Hirata T, Hirota Y, Koga K, Fujii T, Osuga Y. Activation of endoplasmic reticulum stress mediates oxidative stress-induced apoptosis of granulosa cells in ovaries affected by endometrioma. *Mol Hum Reprod*. 2020 Jan 1;26(1):40-52. doi: 10.1093/molehr/gaz066. PMID: 31869409.
5. Kanda R, Miyagawa Y, Wada-Hiraike O, Hiraike H, Fukui S, Nagasaka K, Ryo E, Fujii T, Osuga Y, Ayabe T. Rikkunshito attenuates induction of epithelial- mesenchymal switch via activation of Sirtuin1 in ovarian cancer cells. *Endocr J*. 2020 Apr 28;67(4):379-386. doi: 10.1507/endocrj.EJ19-0368. Epub 2019 Dec 14. PMID: 31839623.
6. Takeuchi M, Tanikawa M, Nagasaka K, Oda K, Kawata Y, Oki S, Agapiti C, Sone K, Miyagawa Y, Hiraike H, Wada-Hiraike O, Kuramoto H, Ayabe T, Osuga Y, Fujii T. Anti-Tumor Effect of Inhibition of DNA Damage Response Proteins, ATM and ATR, in Endometrial Cancer Cells. *Cancers (Basel)*. 2019 Dec 1;11(12):1913. doi: 10.3390/cancers11121913. PMID: 31805725; PMCID: PMC6966633.
7. Fukui S, Nagasaka K, Miyagawa Y, Kikuchi-Koike R, Kawata Y, Kanda R, Ichinose T, Sugihara T, Hiraike H, Wada-Hiraike O, Sasajima Y, Ayabe T. The proteasome deubiquitinase inhibitor bAP15 downregulates TGF- $\beta$ /Smad signaling and induces apoptosis via UCHL5 inhibition in ovarian cancer. *Oncotarget*. 2019 Oct 15;10(57):5932-5948. doi: 10.18632/oncotarget.27219. PMID: 31666925; PMCID: PMC6800272.
8. Nakazawa A, Hirata T, Arakawa T, Nagashima N, Fukuda S, Neriishi K, Harada M, Hirota Y, Koga K, Wada-Hiraike O, Koizumi Y, Fujii T, Irahara M, Osuga Y. A survey of public attitudes toward uterus transplantation, surrogacy, and adoption in Japan. *PLoS One*. 2019 Oct 30;14(10):e0223571. doi: 10.1371/journal.pone.0223571. PMID: 31665149; PMCID: PMC6821076.
9. Takahashi N, Harada M, Azhary JMK, Kunitomi C, Nose E, Terao H, Koike H, Wada-Hiraike O, Hirata T, Hirota Y, Koga K, Fujii T, Osuga Y. Accumulation of advanced glycation end products in follicles is associated with poor oocyte developmental competence. *Mol Hum Reprod*. 2019 Nov 30;25(11):684-694. doi:

- 10.1093/molehr/gaz050. PMID: 31504800.
10. Makii C, Ikeda Y, Oda K, Uehara Y, Nishijima A, Koso T, Kawata Y, Kashiyama T, Miyasaka A, Sone K, Tanikawa M, Tsuruga T, Mori-Uchino M, Nagasaka K, Matsumoto Y, Wada-Hiraike O, Kawana K, Hasegawa K, Fujiwara K, Aburatani H, Osuga Y, Fujii T. Anti-tumor activity of dual inhibition of phosphatidylinositol 3-kinase and MDM2 against clear cell ovarian carcinoma. *Gynecol Oncol.* 2019 Nov;155(2):331-339. doi: 10.1016/j.ygyno.2019.08.028. Epub 2019 Sep 5. PMID: 31493899.
  11. Takeuchi M, Nagasaka K, Yoshida M, Kawata Y, Miyagawa Y, Tago S, Hiraike H, Wada-Hiraike O, Oda K, Osuga Y, Fujii T, Ayabe T, Kim SH, Fujii T. On-chip immunofluorescence analysis of single cervical cells using an electroactive microwell array with barrier for cervical screening. *Biomicrofluidics.* 2019 Jul 30;13(4):044107. doi: 10.1063/1.5089796. PMID: 31431817; PMCID: PMC6697034.
  12. Arakawa T, Hirata T, Koga K, Neriishi K, Fukuda S, Ma S, Sun H, Nagashima N, Harada M, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Clinical aspects and management of inguinal endometriosis: A case series of 20 patients. *J Obstet Gynaecol Res.* 2019 Oct;45(10):2029-2036. doi: 10.1111/jog.14059. Epub 2019 Aug 5. PMID: 31381248.
  13. Terao H, Wada-Hiraike O, Nagumo A, Kunitomi C, Azhary JMK, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Koga K, Fujii T, Osuga Y. Role of oxidative stress in follicular fluid on embryos of patients undergoing assisted reproductive technology treatment. *J Obstet Gynaecol Res.* 2019 Sep;45(9):1884-1891. doi: 10.1111/jog.14040. Epub 2019 Jul 1. PMID: 31257684.
  14. Takeuchi A, Koga K, Satake E, Makabe T, Taguchi A, Miyashita M, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Yoshino O, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Endometriosis Triggers Excessive Activation of Primordial Follicles via PI3K-PTEN-Akt-Foxo3 Pathway. *J Clin Endocrinol Metab.* 2019 Nov 1;104(11):5547-5554. doi: 10.1210/jc.2019-00281. PMID: 31219551.
  15. Kojima M, Sone K, Oda K, Hamamoto R, Kaneko S, Oki S, Kukita A, Machino H, Honjoh H, Kawata Y, Kashiyama T, Asada K, Tanikawa M, Mori-Uchino M, Tsuruga T, Nagasaka K, Matsumoto Y, Wada-Hiraike O, Osuga Y, Fujii T. The histone methyltransferase WHSC1 is regulated by EZH2 and is important for ovarian clear cell carcinoma cell proliferation. *BMC Cancer.* 2019 May 15;19(1):455. doi: 10.1186/s12885-019-5638-9. PMID: 31092221; PMCID: PMC6521555.
  16. Hidari T, Hirata T, Arakawa T, Koga K, Neriishi K, Fukuda S, Nakazawa A, Nagashima N, Ma S, Sun H, Takamura M, Harada M, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Contralateral ovarian endometrioma recurrence after unilateral salpingo-oophorectomy. *BMC Womens Health.* 2019 May 2;19(1):59. doi: 10.1186/s12905-019-0760-z. PMID: 31046768; PMCID: PMC6498560.
  17. Hirano M, Wada-Hiraike O, Miyamamoto Y, Yamada S, Fujii T, Osuga Y. A case of functioning gonadotroph adenoma in a reproductive aged woman. *Endocr J.* 2019 Jul 28;66(7):653-656. doi: 10.1507/endocrj.EJ19-0066. Epub 2019 Apr 19. PMID: 31006723.
  18. Kukita A, Sone K, Oda K, Hamamoto R, Kaneko S, Komatsu M, Wada M, Honjoh H, Kawata Y, Kojima M, Oki S, Sato M, Asada K, Taguchi A, Miyasaka A, Tanikawa M, Nagasaka K, Matsumoto Y, Wada-Hiraike O, Osuga Y, Fujii T. Histone methyltransferase SMYD2 selective inhibitor LLY-507 in combination with poly ADP ribose polymerase inhibitor has therapeutic potential against high-grade serous ovarian carcinomas. *Biochem Biophys Res Commun.* 2019 May 28;513(2):340-346. doi: 10.1016/j.bbrc.2019.03.155. Epub 2019 Apr 4.

PMID: 30955858.

19. Kondo A, Akada S, Akiyama K, Arakawa M, Ichi S, Inamoto Y, Ishida T, Ishikawa H, Itoh T, Izumi A, Kimura F, Kondo AS, Matsuoka R, Miyauchi A, Mochizuki J, Momohara Y, Morikawa S, Morioka M, Morota N, Nakabe K, Obayashi S, Oku M, Samura O, Sasahara J, Sase M, Shimamoto K, Shimamura K, Sumigama S, Tada K, Takahashi H, Tani A, Wada S, Wada-Hiraike O, Watanabe T, Yamaguchi M, Yasui T, Yokomine M. Real prevalence of neural tube defects in Japan: How many of such pregnancies have been terminated? *Congenit Anom (Kyoto)*. 2019 Jul;59(4):118-124. doi: 10.1111/cga.12333. Epub 2019 Apr 3. PMID: 30883906.

<研究分担者 鈴木 眞理>

1. 鈴木眞理. 個別栄養相談指導の実際 やせ (過激なダイエット・偏食含む). 金田雅代編著. 四訂栄養教諭論—理論と実際—.2019: 159—162
2. 鈴木眞理. 摂食障害と内分泌. 南学正臣総編集 伊藤裕・下村伊一郎部門編集. 改訂第9版内科学書 第5巻 内分泌疾患 代謝・栄養疾患, 2019: 253—256
3. 鈴木眞理, 小原千郷, 摂食障害 理解と回復のために (DVD), 社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団福祉ビデオシリーズ, 2019
4. 鈴木眞理. 神経性やせ症の心理教育と栄養療法, *精神科* 34(5): 462—468.2019
5. 鈴木眞理. 生きづらさと家族会, *こころの科学* 209: 89—93,2019.

研究成果による知的財産権の出願・取得状況：  
知的財産の内容、種類、番号、出願年月日、取得年月日、権利者  
特になし

図1 2019年12月データサマリー

## ■アクセスサマリー（2016/3/31～2019/12/31）

閲覧数 (PV)	訪問者数 (セッション)	ページ/セッション
25,840,294	11,192,348	2.31

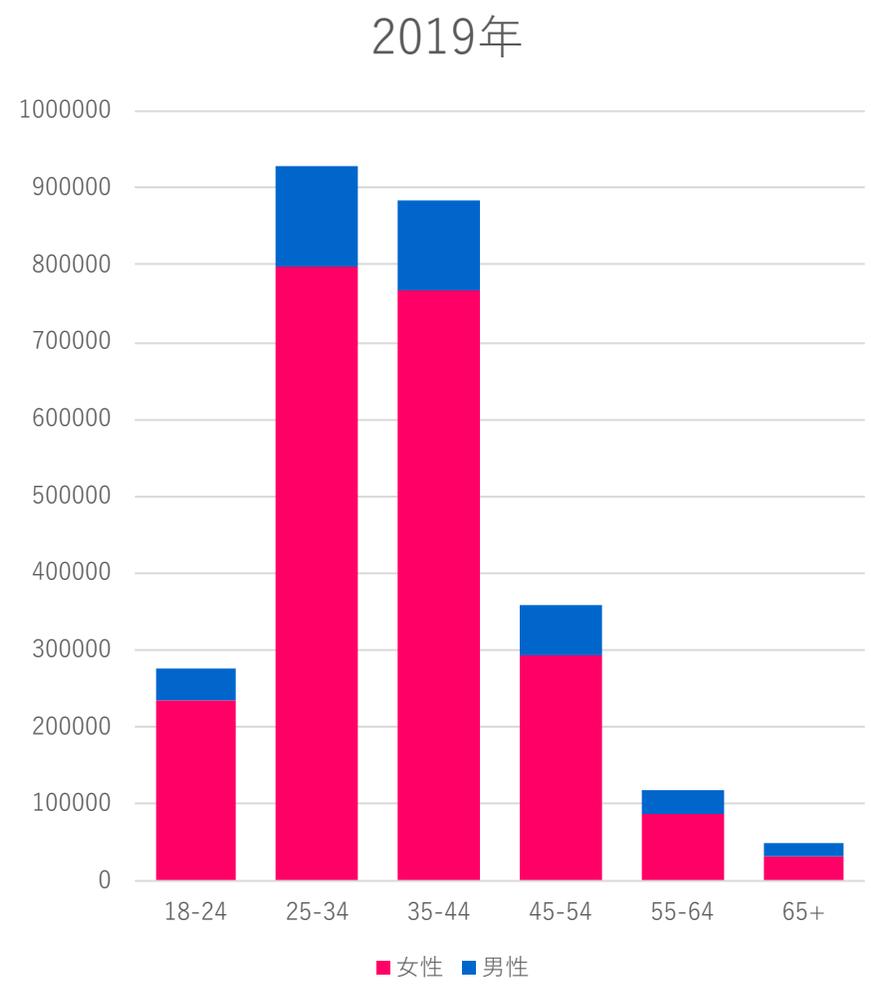
### ユーザーのアクセス環境

デバイス		ブラウザ		新規orリピーター		流入元	
PC	7.75%	Safari	60.04%	新規	88.44%	検索エンジン	93.70%
スマートフォン	87.47%	Chrome	28.24%	リピーター	11.56%	ブックマークなど	5.10%
タブレット	4.79%	Android	5.24%			参照サイト	1.10%
		IE、Edge	4.23%			SNSなど	0.10%
		その他	2.25%				

### ユーザー属性

年齢層		性別	
18～24	12.69%	女性	84.60%
25～34	35.00%	男性	15.40%
35～44	32.45%		
45～54	13.69%		
55～64	4.40%		
65歳以上	1.76%		

図2 2019年男女・年齢層別訪問者数データ



順位	年齢	性別	訪問数
1	25-34	女性	797638
2	35-44	女性	767887
3	45-54	女性	293120
4	18-24	女性	236286
5	25-34	男性	130252
6	35-44	男性	117696
7	55-64	女性	87805
8	45-54	男性	66964
9	18-24	男性	39384
10	55-64	男性	31310
11	65+	女性	30332
12	65+	男性	18183

図3 月間PV数の推移 2016/3/31～2019/12/31

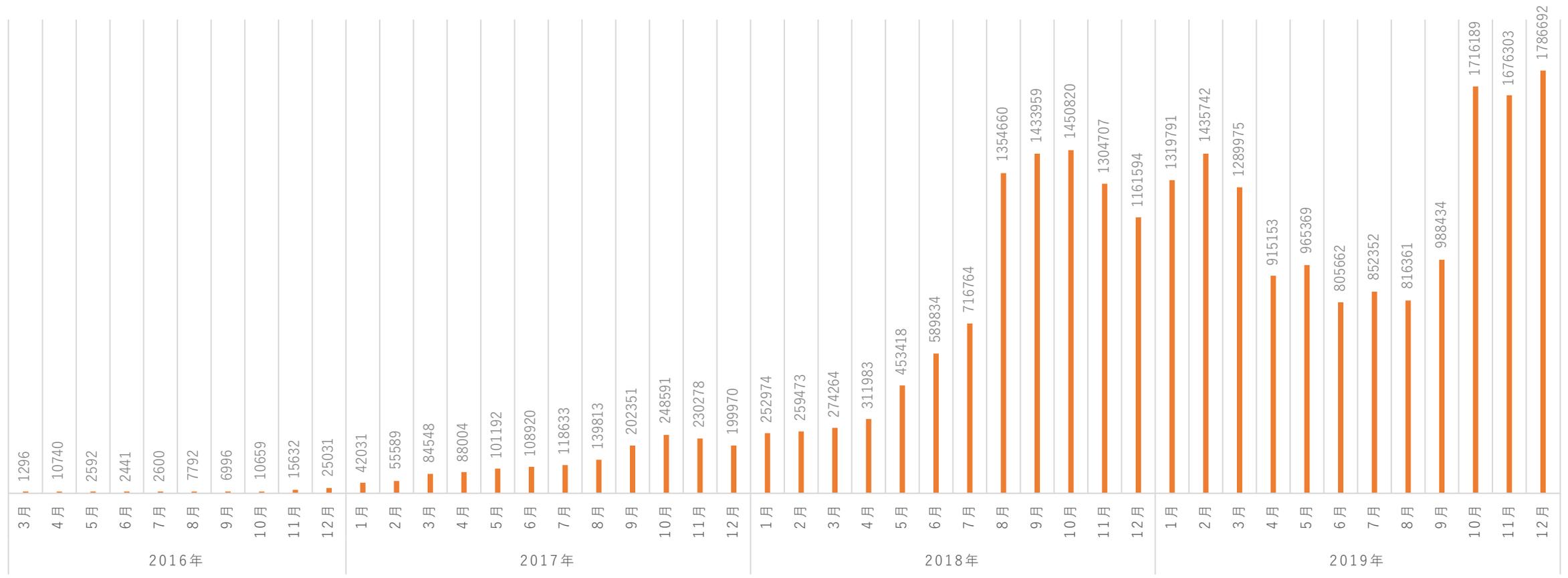


図4 月間セッション数の推移 2016/3/31～2019/12/31

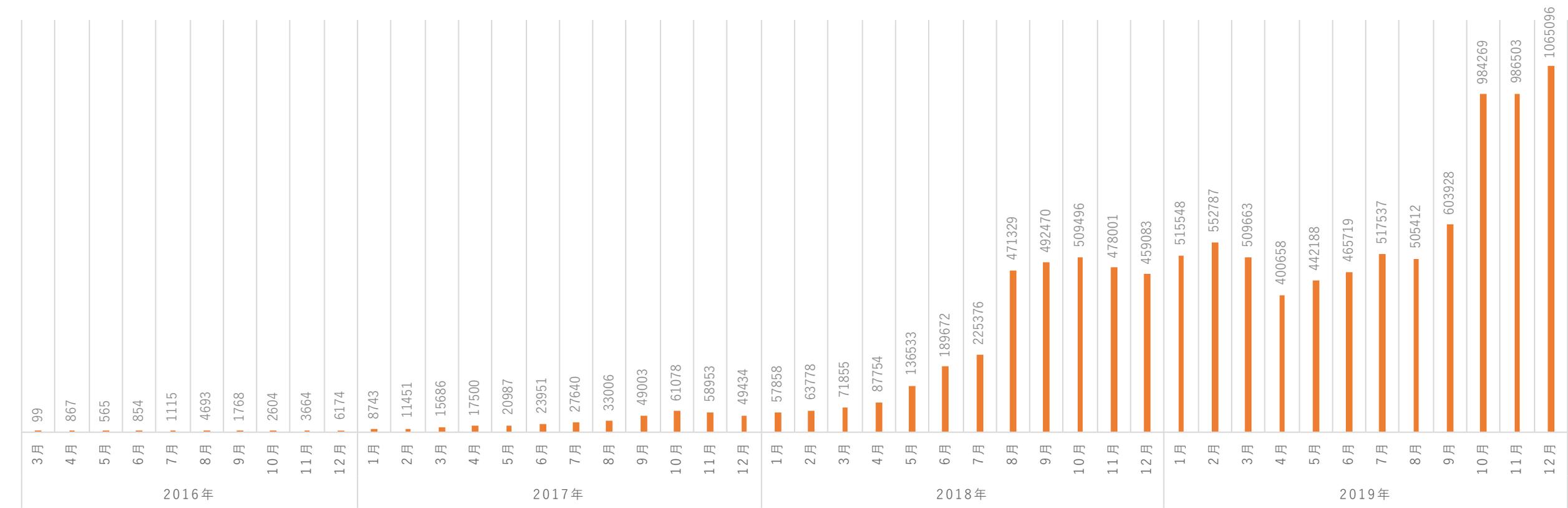


図5 月間ユーザー数の推移 2016/3/31～2019/12/31

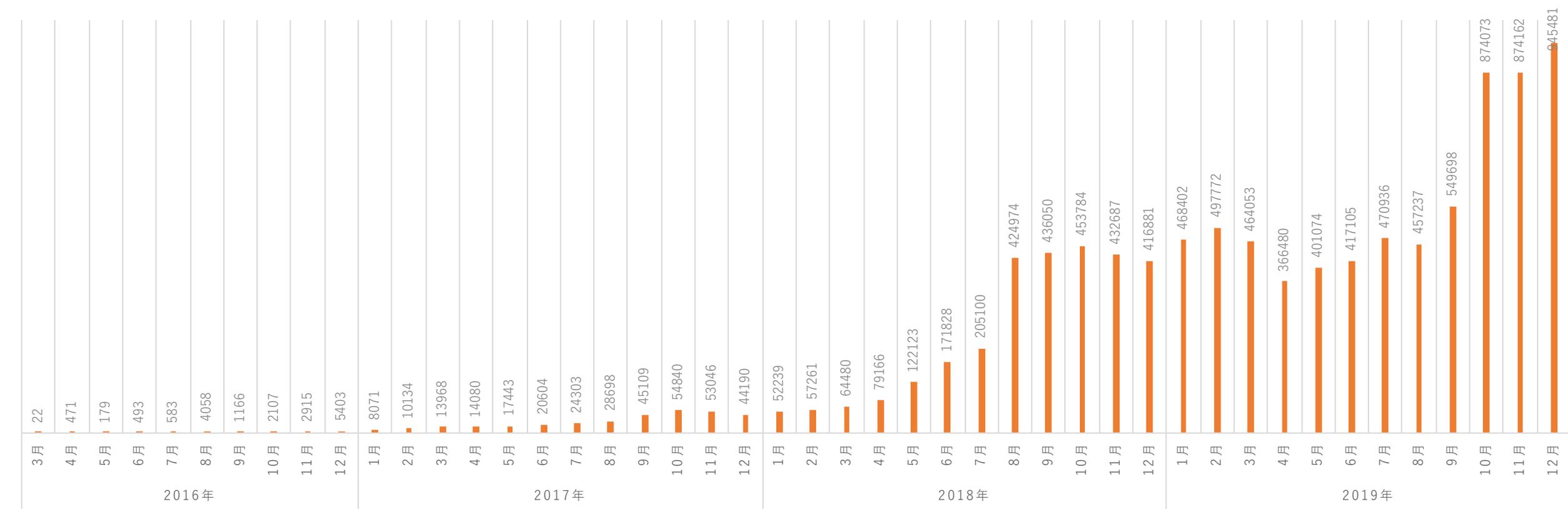


図6 月間セッション数、PV数とセッション/PV数の推移 2016/3/31~2019/12/31

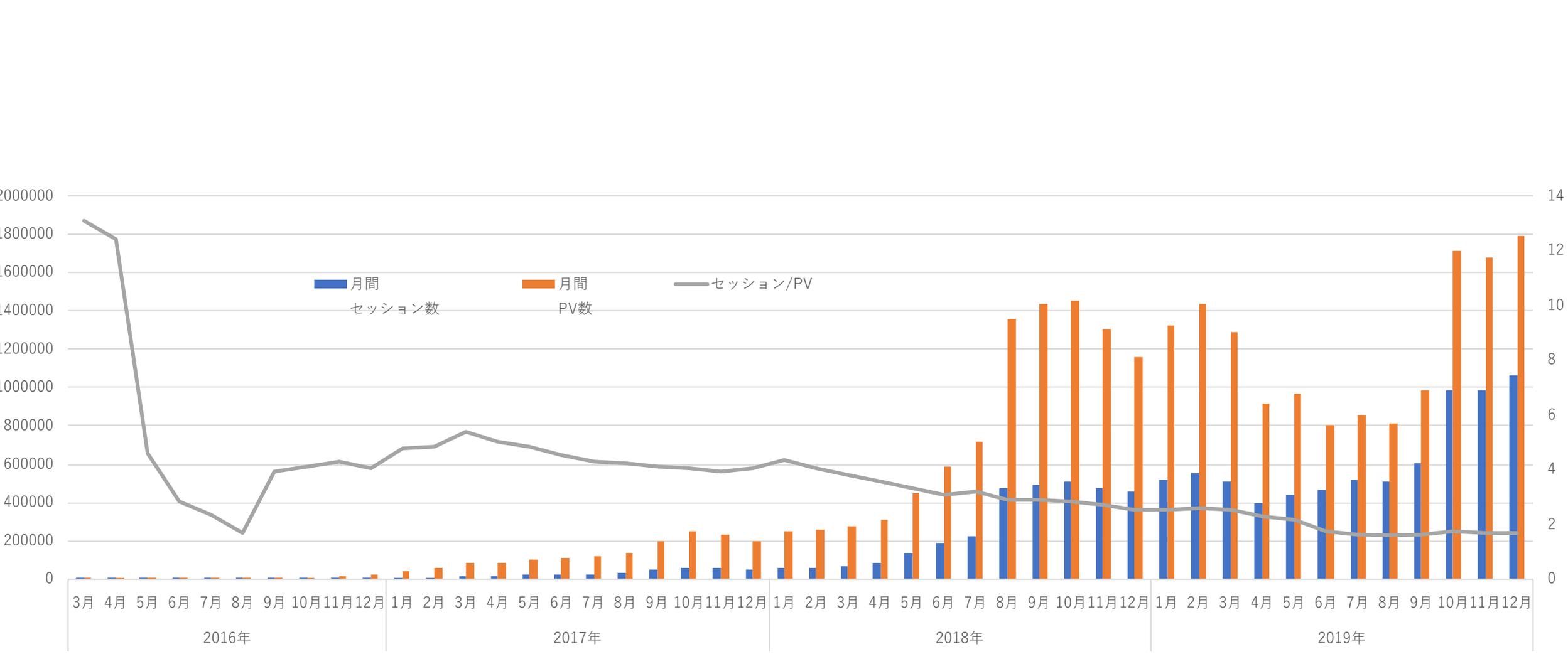


図7 新規・リピーターユーザー割合の推移 2016/3/31～2019/12/31

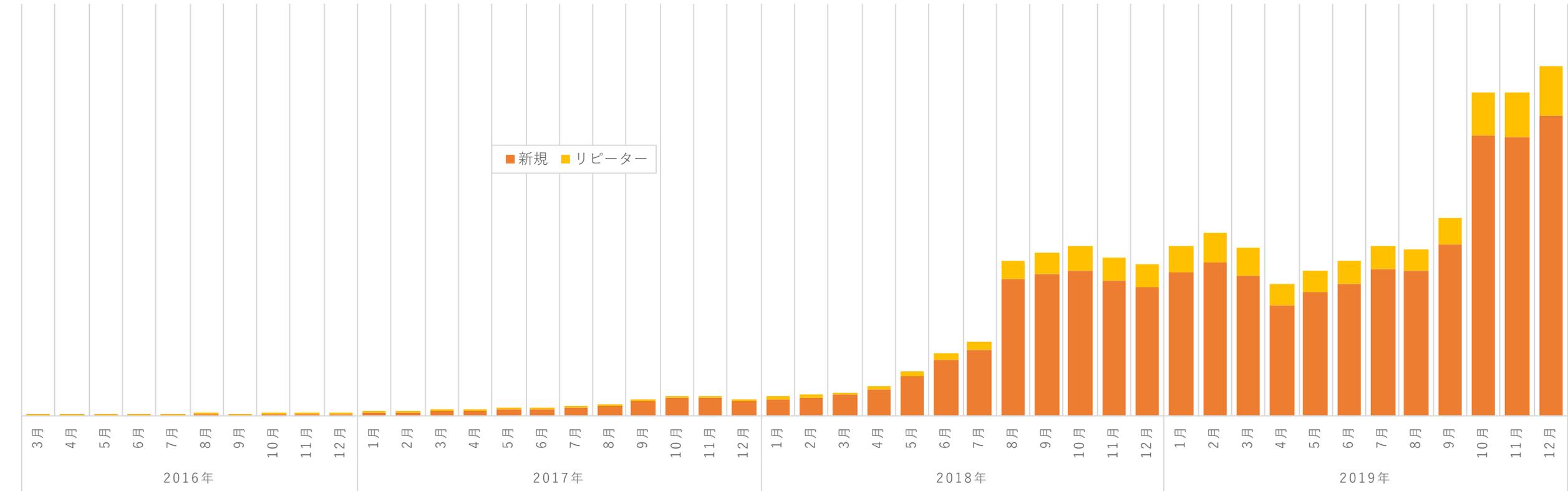
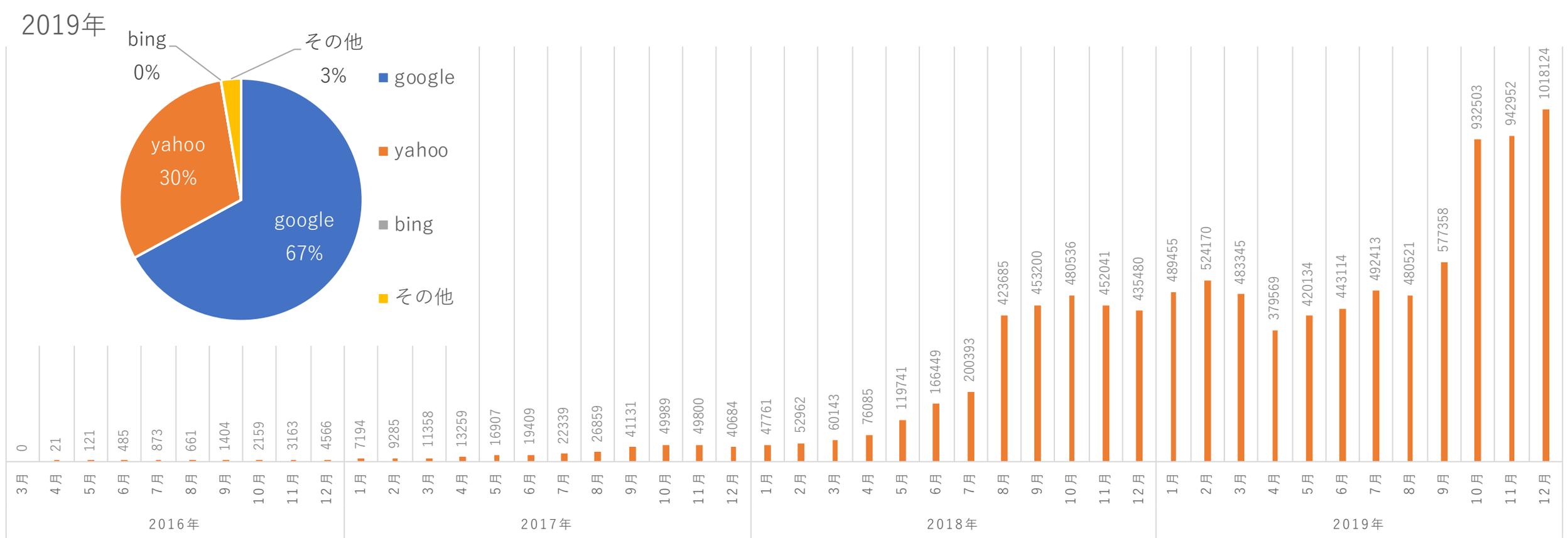
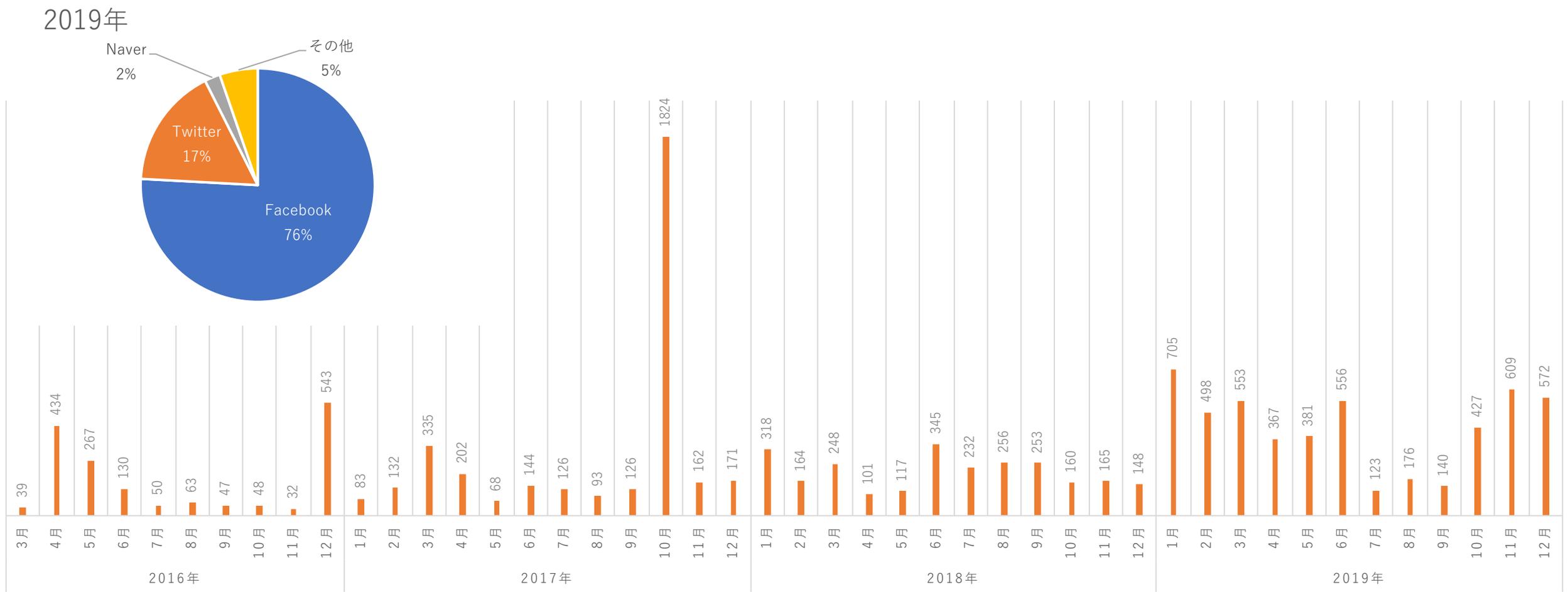


図8 自然検索流入数の推移 2016/3/31~2019/12/31



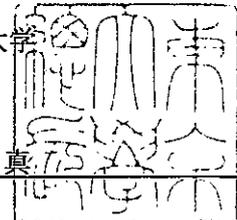
自然検索流入数：キーワード検索による訪問数

図9 SNSからの流入数の推移 2016/3/31～2019/12/31



厚生労働大臣 殿

機関名 東京大学  
 所属研究機関長 職名 総長  
 氏名 五神 真 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部附属病院・教授  
 (氏名・フリガナ) 藤井 知行・フジイ トモユキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

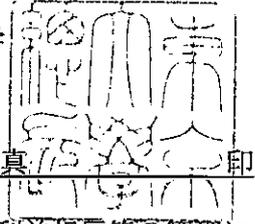
(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年6月11日

厚生労働大臣 殿

機関名 東京大学

所属研究機関長 職名 総長

氏名 五神 真 

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 2. 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部附属病院・教授  
(氏名・フリガナ) 大須賀 穂・オオスガ ユタカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

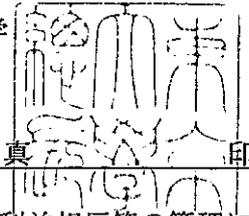
(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年5月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 東京大学  
所属研究機関長 職名 総長  
氏名 五神 真 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 2. 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部附属病院・教授  
(氏名・フリガナ) 秋下 雅弘・ アキシタ マサヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

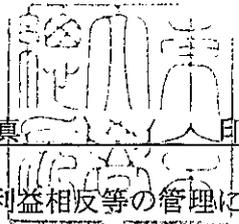
(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年6月11日

厚生労働大臣 殿

機関名 東京大学

所属研究機関長 職名 総長

氏名 五神 真 

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 2. 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部附属病院・助教  
(氏名・フリガナ) 市橋 香代・イチハシ カヨ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

なし

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年 4月 21日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 埼玉医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 別所正美



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 埼玉医科大学総合医療センター産婦人科・教授  
(氏名・フリガナ) 菊池昭彦・キクチアキヒコ

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する口チェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

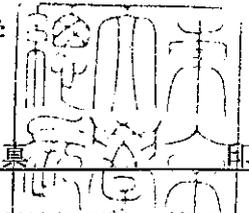
令和2年6月11日

厚生労働大臣 殿

機関名 東京大学

所属研究機関長 職名 総長

氏名 五神 真 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業

2. 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部附属病院・准教授

(氏名・フリガナ) 平池 修・ ヒライケ オサム

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

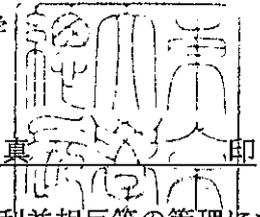
令和2年6月11日

厚生労働大臣 殿

機関名 東京大学

所属研究機関長 職名 総長

氏名 五神 真



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 2. 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部附属病院・教授  
(氏名・フリガナ) 田中 栄・タナカ サカエ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

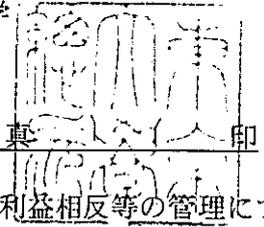
当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年6月11日

厚生労働大臣 殿

機関名 東京大学  
 所属研究機関長 職名 総長  
 氏名 五神 真 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部附属病院・准教授  
 (氏名・フリガナ) 北中 幸子・キタナカ サチコ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 5月 7日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 跡見学園女子大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 笠原 清志



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 令和2年度厚生労働科学研究費補助金(女性の健康の包括的支援政策研究事業)
- 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究 (H30-女性-一般-001)
- 研究者名 (所属部局・職名) 心理学部 臨床心理学科 特任教授  
(氏名・フリガナ) 鈴木 眞理・スズキ マリ

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項) \_\_\_\_\_

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

年 月 日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 医療法人社団ウィミンズ・ウェルネス

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 対馬 ルリ子



次の職員の平成 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 医療法人社団ウィミンズ・ウェルネス  
(氏名・フリガナ) 対馬 ルリ子 (ツシマ ルリコ)

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 東京大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人国立がん研究センター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 中釜 齊 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 厚生労働科学研究費補助金女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 2. 研究課題名 女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) がん対策情報センター センター長  
(氏名・フリガナ) 若尾 文彦 ワカオ フミヒコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。